

利用者が主体的に参加する音楽イベント「ぷちっとサマーフェス in たきにし」

(担当：子どもわくわく課滝野川西児童館)

事業の背景・目的

(背景)

北区では小学生の居場所として小学校を会場に放課後子ども総合プラン(わくわく☆ひろば)が導入され、児童館は在宅の乳幼児親子が主な利用者となった。

昨年から新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため児童館も入館制限を余儀なくされ、職員間では子育て中の保護者の孤立化が気になりとなっていた。そんな折、三線(さんしん：弦楽器)の弾き語りが得意だという奄美大島出身の保護者と出会い、「みんなの前で演奏をしたいっ!」と、言う彼女の一言から、子育て中の保護者のために何か出来ないかと職員で話し合いを重ねた。

「笑顔になれるのが児童館」「この時期にみんなへエールを贈りたい」…そんな職員の想いも重なり、楽器演奏ができる利用者同士をつなげ、演奏はできないけどボディパーカッションなら参加できる人など、次第に参加者の輪を広げていった。さらに、わくわく☆ひろばを利用する小学生も加わり、チーム作りを意識してコンサートを開催した。

(目的)

- ・乳幼児と子育て中の保護者を支援する
- ・利用者同士の交流を深め、地域のつながりを促進する
- ・放課後子ども総合プランと連携した運営をする

事業の概要

○実施日 令和3年7月10日(土) 《二部制》・午前10:30~11:15
・午後 2:30~ 3:30

○実施場所 滝野川西児童館 プレイホール

○当日のプログラム

1. ボディパーカッション (利用者+職員)
2. タングラム (職員)
3. ダンス・自作の歌発表 (小学生：放課後子ども総合プラン)
4. うた (幼児さん)
5. バンド演奏 (利用者バンド「出逢エール」)

※バンド名：出会う+エール=出逢エール

※演奏：ピアノ・ギター・フルート・ドラム・

クラリネット・カホン・トランペット

◇実施方法 □バンド演奏者に楽譜を事前配布し、自主的に児童館で練習をする。

□ボディパーカッションは出演予定の保護者が来館時に練習する。

振り付けは保護者と職員で一緒に考える。

□小学生は利用している遊びの時間に、自主的に練習を重ねる。

□本番前に合同練習をする。

◇職員体制 児童館職員・放課後子ども総合プラン担当職員(直営)

工夫点・留意点

子育て中でもやりたいことが実現できるよう職員は応援にまわり、参加への声掛けや演奏者の情報を集めて仲間を募ったところ、学校を卒業してから楽器に触れることがなかったので嬉しいと言うパパの参加や、職場復帰前に参加したいというママの申し出もあった。仕事や家庭の都合で一堂に会して練習することが難しかったため「いつでも来ていいよ」という雰囲気醸成し、練習場所の提供をするとともに、合同練習日を設定し、参加者同士がつながりを持てるよう配慮した。

当日は、ママが出演するので、パパや家族が協力して子どもの面倒を見ている場面もあった。

《新型コロナウイルス感染症対策》

- 参加者は、密になることを避けるため、事前申し込み制（チケット配布）にし、会場内は十分な間隔を取り着席できるようにマット・椅子を配置した。（座席は指定席）
- 楽器の前には、客席への飛沫飛散予防用の手作りフィルターを設置した。
- 検温、手指消毒、マスクの着用と、当日は熱中症対策も考慮し参加者にうちわを配布した。

事業の効果

- 参加者と職員がチームを組んでコンサートを開催したのは始めてであったが、一緒につくりあげたことが最大の成果で、参加者も職員もチーム力の大きさを感じることができた。
- 出演した保護者は、緊張感もあったがコロナ禍で人と会えない孤独感が解消されたことや、演奏をやり切った達成感を味わうことができた。また、学生の頃に培った演奏技術を活かし、子育て中でも演奏できる事を実感した様子だった。
- 乳幼児、小学生、保護者が一緒に参加し、小学生は大人の演奏に「かっこいい」と羨望の眼差しを向け、大人は小学生のパフォーマンスを応援し、相互に認めあうことができた。また、乳幼児の保護者は小学生のダンス発表を見て、自分の子どもの将来像をイメージでき、子どもの動きが新鮮に映ったようだ。
- 観覧席にいた保護者の中には、次は一緒にやってみたいという気持ちを持ってくれた人もおり、発展的な事業展開への希望が持てた。
- コロナ禍だったが、久しぶりに児童館全体が賑やかな雰囲気になる、参加した全ての人がハッピーな気持ちになれたと参加者から感想をもらうことができた。



課題・今後の展開

今回は参加保護者の調整は主に職員が実施したが、今後は保護者の自主的な活動になるよう発展させていきたい。

当日の振り返りTimeで「Xmas会や春になったら再演したい」と意見があがった。また、今回の「サマーフェス」に参加しなかった利用者も一緒に楽しめるプログラムを考えたい。音楽と併せて、色々な楽しみ方で保護者同志がつながるよう工夫をしたい。

今後も児童館が核となり、一人でも多くの利用者が子育て中でも事業に参加できるよう、支援を継続していきたい。